

## 第4学年道徳指導案

日 時 平成17年10月28日(金) 2校時  
対 象 3組(男18名 女13名 計31名)  
指導者 釜石 伸子

1 主題名 負けない心〔勤勉・努力1－(3)〕

2 資料名 文字を書く喜び (出典：光村図書「どうとく きみがいちばんひかるとき」4年)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の指導内容1－(3)は、「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」となっている。人はみな、なんらかの夢や目標をもっている。しかし、それに少しでも近づこうと願うとき、努力と、それをやり遂げようとする強い意志が必要となる。そして、小さな努力の積み重ねが、困難を乗り越え、大きな成果や喜びを得ることにつながる。

3・4年の段階は「自分がやらなければならないこと」だけでなく、更に自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切であると考え。

(2) 児童について

本学級の児童は、学校生活の中で、目標をもって意欲的に取り組んでいる。家庭学習や当番活動などの自分がやらなければならないことは、毎日欠かさず行っている子が多い。さらに、サッカーや縄跳びなど得意としていることには、意欲的に取り組む子も多く見られる。一方では、声を掛けなければ、がんばることのできない子、自分の苦手なことや気が向かないことには、やらなければならないとわかっていても、しりごみしてしまいがちな子もいる。また、努力をし続けることに飽きてしまったり、つらくなったら投げ出してしまったりする面も見られる。

そこで、自分の決めたことに粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする心情を育てていく必要があると考え。

(3) 資料について

本資料は、花の詩画集で知られる星野富弘さんの実話である。不慮の事故で首から下の自由を失った星野さんは、2年間ベットの上で天井だけを見つめる日々を過ごした。ある時、後から入院してきて仲良くなった高久君を励ますために寄せ書きを頼まれる。励ましの言葉を口にペンをくわえて書こうとするが、うまくいかずあきらめてしまい、母に手伝ってもらう。星野さんは、そのことが言えず、高久君について嘘をついてしまう。しかし、嘘をついてしまったことが気になり、嘘を本当にしたいと字を書く練習を始める。そして、ついに文字が書けるようになるまでの様子を描いた資料である。

星野さんの苦悩や前向きに生きようとする姿に共感させることは、粘り強くやり遂げようとする心情を育てるのに適していると考え。

(4) 指導にあたって

事前に、総合的な学習の時間『手と手をつなごう』(福祉)において、目の不自由な佐賀典子さんから、盲導犬との生活についての話を聞くことで、佐賀さんと出会っている。

本時の気づく段階では、星野さんが書いたカタカナの文字や、「折れた菜の花」の詩や絵、を提示する。さらに、星野さんが入院するまでの経緯や闘病生活について補足説明することで、より資料への関心を高め、価値への方向づけを図りたい。

見つめる・つかむ段階では、星野さんが病気の少年高久君を励ましたくて、思わずついでに書いた嘘を本当にしようと努力して文字が書けるようになるまでの心の動きを丁寧に考えさせたい。さらに、初めて書いた文字と3年後の文字と絵を比較することで、努力をすることの素晴らしさを感じさせ、本時の道徳的価値に迫りたい。

広げる・まとめる段階では、地域講師の佐賀さんを招き、星野さんの「あきらめずに、努力を続けることの大切さ」に共通する佐賀さんの体験や生き方についての話を聞くことで価値を深めさせ、今までの自分とこれからの自分自身を見つめさせたい。

事後の指導として、心のノートを活用し、自分の決めたことに向かって粘り強く努力し、やり遂げられるよう、家庭との連携を図りながら、賞賛し励ましの言葉がけをしていきたい。

#### 4 本時指導の位置付け

<p>地域講師について</p> <p>[佐賀典子さん]</p>	<p><b>協力を依頼するねらい</b></p> <p>価値を深めるため、努力を重ねできるようになった時の喜びや今生き甲斐としていることなどについて話を聞かせ、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる心を育みたい。</p> <p><b>特徴（よさ）</b></p> <p>目が不自由であるが、盲導犬と一緒にいろいろな学校で話をしたり、様々な活動をしておられる。さらに、総合的な学習の「手と手をつなごう」際、話を聞いている。</p> <p><b>探し方</b></p> <p>学年長からの紹介。</p>
---------------------------------	---

事前打ち合わせ



本時の指導



事後の指導

<p><b>登場場面</b></p> <p>「広げる」「まとめる」段階</p> <p><b>時間配分</b></p> <p>12分</p> <p><b>内容</b></p> <p>目が見えなくても自分の夢に向かって、あきらめずに努力をしたという内容。</p> <p><b>どのように</b></p> <p>いつも生活している盲導犬と一緒に来ていただき話をしていただく。</p>	<p>○道徳</p> <p>主題名 負けない心</p> <p>価値 勤勉・努力1－(3)</p> <p>資料名 文字を書く喜び</p> <p>ねらい 粘り強く立ち向かうことは人間の生きる喜びに結びつくことを理解し、やり遂げようとする心情を養う。</p>	<p>○学活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の感想を書かせ、感謝の気持ちを込めて贈る。</li> </ul> <p>○帰りの会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノート（P23）を活用し、日常生活の中での目標に向かってやり遂げようとする意欲付けとする。</li> </ul>
--	--	---

#### 5 本時の指導

##### (1) ねらい

目標をもち、粘り強く努力することは人間の生きる喜びに結びつくことを理解し、やり遂げようとする心情を養う。

##### (2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される発言や心の動き	指導・援助の留意点
気づく	<p>1 星野さんが書いたカタカナの文字と「折れた菜の花」の作品を見て気付いたことや感想を発表し、星野さんについて話を聞く。</p> <p>○この2枚の文字や絵を見てどう思いますか。</p> <p>2 資料を読み、課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くねくねしている。</li> <li>・カタカナの方は下手な字。</li> <li>・小さい子が書いたのかな。</li> <li>・絵がうまい。</li> <li>・きれいな色の花。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の写真を拡大して提示する。</li> <li>・星野さんがけがをしてから初めて書いた文字とそれから3年後に書いた作品であることを知らせ、資料への関心を高める。</li> </ul>
10分	<p>「折れた菜の花」の絵と文字をかくまでの星野さんの3年間について考えよう。</p>		

見 つ め る  つ か む	<p>3 星野さんの気持ちについて話し合う。</p> <p>○2年間、星野さんはどんな気持ちで病院の天井を見つめていたのでしょうか。</p> <p>○星野さんは高久君に嘘をついてしまってどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>○初めて文字が書けた時、星野さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◎「折れた菜の花」をかくまでの星野さんの3年間は、どんな3年間だったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動けないのはつらい。</li> <li>・このまま動けないのはいやだ。</li> <li>・やりたいことができないくて、悲しい。</li> <li>・一生このままなのか不安。</li> <li>・生きているのがいやだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は書けないのに思わず嘘を言ってしまうと後悔した。</li> <li>・うそをついたままではだめだ。</li> <li>・なんとか、嘘を本当にしなければならぬ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にもできた。</li> <li>・書いて、うれしい。</li> <li>・嘘を本当にすることができた。</li> <li>・もっと美しい文字が書けるようになりたい</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必死に努力した3年間。</li> <li>・努力を続けた。</li> <li>・あきらめそうになりながらもねばり強くがんばった3年間。</li> <li>・生きる喜びがでた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベットに寝ている写真を提示する。</li> <li>・2年間という月日の長さを実感させ、星野さんの苦しみや不安な気持ちを想像し、共感させていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嘘を本当にしようと考えた星野さんの心の動きを丁寧に考えさせていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を書くことができたことが、生きる喜びとなったことに共感させたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で提示したカタカナの文字と「折れた菜の花」を比べさせ星野さんの努力の成果に気付かせる。</li> </ul>
広 げ る ま と め る  12 分	<p>4 地域講師の佐賀さんの話を聞き感想を発表する。</p> <p>○地域講師の佐賀さんの話を聞いて、感想を発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀さんは、あきらめずに夢を叶えることができてよかった。</li> <li>・佐賀さんもすごく努力をしている。</li> <li>・自分も今やっていることを続けていきたい。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>地域講師の佐賀さんの話を聞くことで、やり遂げるまでの過程や気持ちを考えさせ、努力することの素晴らしさに気付かたい。</p> </div>

6 板書計画

# 文字を書く喜び

星野富弘さん

- ・首から下動かない。
- ・自分では何もできない。

写真

写真

「折れた菜の花」をかけるようになるまでの星野さんの三年間を考えよう。

天井を見つめた二年間

- ・つらい
- ・やりたいことができない
- ・一生このままはいやだ

絵

高久君にうそついてしまった

- ・うそをついたままではだめだ
- ・うそを本当にしなければ

とうとう文字が書けた

- ・書いてうれしい
- ・うそを本当にすることができた

カタカナの文字



「折れた菜の花」をかけるようになるまでの星野さんの三年間。

折れた菜の花

- ・必死に努力した三年間
- ・努力を続けた
- ・生きる喜びができた
- ・あきらめそうになりながらも努力した

努力を続けること・ねばり強さ

7 資料分析

資料名 **文字を書く喜び**

(出典：光村図書「どうとく きみがいちばんひかるとき」4年)

ねらい 目標をもち、粘り強く努力することは人間の生きる喜びに結びつくことを理解し、やり遂げようとする心情を養う。

場面	入院した星野さんがベッドの上で天井を見つめる	高久君の帽子に寄せ書きを頼まれ、嘘をついてしまう	文字を書けるようになる	文字を書くことが、星野さんの生きる喜びとなった
外的状況と主人公の心の動き	<p>すべて、人にお世話してもらわなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つらい。</li> <li>・また体操がしたい。</li> <li>・手伝ってあげたい。</li> <li>・動けない日々はつらい。</li> </ul> <p>不安</p> <p>絶望</p> <p>苦しみ</p> <p>悲しみ</p>	<p>高久君へのはげましの言葉を書こうとするが、線すらかけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高久君を励ましてやりたい。</li> <li>・なんとかして文字を書きたい。</li> <li>・自分には、もう何もできない。</li> </ul> <p>あきらめ</p> <p>失望</p>	<p>嘘を本当にしたいと、血のにじむ努力をし、文字を書くことができた。</p> <p>努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高久君についての嘘が気になって仕方がない。</li> <li>・嘘のままでは、だめだ。</li> <li>・今はへなへなしてして、見かけは悪いが、時間をかけて練習していこう。</li> <li>・いつかきっと美しい文字を書けるようになるだろう。</li> </ul> <p>後悔</p> <p>後ろめたさ</p> <p>忍耐</p> <p>強い決意</p>	<p>文字を書くことが生きる喜び。</p> <p>勤勉・努力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめないでよかった。</li> <li>・堂々と生きていける。(高久君に対して)</li> <li>・自分にもできることが見つかった。</li> </ul> <p>希望</p> <p>夢</p> <p>強い決意</p> <p>喜び</p>
児童の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいそうだ。</li> <li>・2年間も思うように動けないのはたいへんだ。</li> <li>・悲しい気持ちになっただろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書こうと思ってもうまくいかないからあきらめたくないだろう。</li> <li>・嘘をついてしまったけれど、しょうがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯ぐきから血が出るまでがんばるなんてすごい。</li> <li>・星野さんの努力が素晴らしい。</li> <li>・うまくできないこともあったと思うけど、よく頑張ったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が書けるようになって、さらに努力をして、こんなきれいな絵も描けるようになったんだ。</li> <li>・努力をしているんなものが書けるようになってうれしかったと思う。</li> </ul>
発問	2年間星野さんはどんな気持ちで病院の天井を見つめていたのでしょうか。	星野さんは高久君に嘘をついてしまってどんな気持ちになったのでしょうか。	初めて文字を書けた時、星野さんはどんな気持ちだったでしょう。	文字を書けるようになって、「折れた菜の花」をかくまでの星野さんの3年間は、どんな3年間だったでしょう。